

< 参考事例 > 国語

第3学年「読んで聞いて見つけよう！様子や気持ちを表す言葉」

学習指導要領 言語事項工（ア）

「報告書」によると、小学校4年の漢字の読み・書き、対義語、文章の内容の読み取りの設問に、正答率80パーセントに満たない結果が見られた。分析の結果、これらの原因の一つに、語彙の不足が考えられる。この単元では、国語の基になる言葉を広げる学習を構成することにした。指導方法には、少人数学習集団による指導を導入する。

- 1 単元名 「読んで聞いて見つけよう！様子や気持ちを表す言葉」(小学校第3学年)
- 2 単元のねらい

関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
様子や気持ちを表す言葉や表現に注目し、言葉に対する興味・関心をもつ。	様子や気持ちを表す言葉を学習し、読んだり書いたりすることによって、表現したり理解したりするために必要な語句を広げる。

3 本単元における基礎的・基本的な内容と既習事項との関連

既習事項 小学校学習指導要領解説 国語編

話すこと・聞くこと

イ 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。(1・2年)

読むこと

エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。(1・2年)

ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。(1・2年)

カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。(3・4年)

言語事項

エ 語句に関する事項

(ア) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。(3・4年)

オ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。(1・2年)

(ア) 修飾・被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。(3・4年)



本単元における基礎的・基本的な内容

様子や気持ちを表す言葉について理解し、語句の類別について認識する。(言)

文章から様子や気持ちを表す言葉を探し、また、他のグループの報告を聞くことによって語句を増やし、知識を定着させる。(読)(話・聞)(言)

他のグループの報告を聞き、進んで語句を増やそうとしている。(関)

4 基礎的・基本的な内容の定着を図るための手だて

(1) 個に応じた指導

この単元では、1次の一斉授業で、様子や気持ちを表す言葉を学習したあと、2次で少人数学習集団を導入する。語句の知識を広げ定着を図るために、児童の興味・関心や言葉の知識・理解に応じて3つのグループに分かれ、それぞれの方法によって学習を進める。3次で、再び一斉授業により、2次で得た語句について全員で聞き合い、語句を増やしていく。

「言葉の探偵」グループ・・・教師が寄り添い、じっくりと基礎的・基本的な内容について学習する。

「一枚の写真」グループ・・・児童個人の学習とグループ学習によって内容の定着を図る。

「類義語調査」グループ・・・児童個人が発展的な学習に取り組む。

(2) 関連付けた指導

言葉の学習を定着させるため、言語事項と他の3つの領域を関連付けた指導を計画した。1次で学習した様子や気持ちを表す言葉について、2次では、物語から読み取ったり、語句を使って説明文を書いたり、類義語を調べて例文を書くことによって言語事項と関連させ、理解と定着を図る。3次では、2次で学習したことを発表したり、聞いたり、ワークシート(表現辞典)に記入したりしながら語句を増やしていく。

5 第3学年 年間指導計画例

(1) 1・2・3年の学習内容(言語事項)

1年	2年	3年
「うたにあわせて」 「なかまの漢字」 「ことばをいれてぶんをつくろう」	「主語とじゅつ語」 「お手紙こうかんかい」 「ことばあそび」 「なかまの漢字」	「写真を見て話そう」「なかまになる漢字」「国語辞典たんけん」 「調べたことを発表しよう」「場面の様子を想ぞうしながら読もう」「くわしくする言葉」「叙述に関わる言葉の意味」「言葉でスケッチ」「分かりやすく書いて説明しよう」「道あんないしよう」 「たしかめながら話す・聞く」「言葉のなかま集めをしよう」

(2) 単元学習後の展開例

話すこと・聞くこと 言語活動(3・4年) ・要点などをメモに取りながら聞く。 ・友達の話を書くこと。 ・身近な話題についてスピーチすること。	書くこと 言語活動(3・4年) ・自分の疑問に思ったことなどを調べてまとめること。 ・経験した事を記録文や学級新聞などに表すこと。	読むこと 言語活動例 言語活動(3・4年) ・読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと。 ・疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むこと。	言語事項 ・ものの名前や動きを表す言葉の類別を理解する。	読書生活 他教科、総合的な学習の時間 ・文章表現 ・発表など
--	--	---	--	--

(3) 指導と評価の計画(5時間扱い)

実態把握：語句についての知識・理解の定着状況を把握し、少人数学習集団のグループ分けの資料とする。		
次	学習活動	教師の指導・支援 評価(…主たる評価規準)
1次	様子と気持ちを表す言葉ってどんな言葉？ (1.5時間) 様子や気持ちを表す言葉について学習する。 ・様子や気持ちを表す言葉の例によって様子や気持ちを表す言葉について理解する。 ・状況や状態を表した写真や絵を見て、適切だと思う言葉を出し合い、様々な言葉があることを確認する。 少人数学習の内容の説明を聞き、自分の興味・関心と適性に応じてグループを決める。	教科書やプリントを使って様子や気持ちを表す言葉について説明する。 喜怒哀楽について説明し、それぞれの意味を表す言葉をいくつか例示する。 様子や気持ちを表す言葉について理解し、語句の類別について認識している。(言) 児童の適性について個々に助言する。
2次	グループで様子と気持ちを表す言葉を使ってみよう(2.5時間) グループに分かれて、文章から様子や気持ちを表す言葉を探したり、使い方を考えたりする。	学習の進め方について説明する。 文章から様子や気持ちを表す言葉を探し、語句を増やしている。(読)(言)
	「言葉の探偵」グループ (教師が寄り添い、じっくりと学習に取り組む) ・1つの物語を読んで、様子や気持ちを表す言葉を探す。 ・はじめは各自で学習し、その後で発表し合い、確認する。	
	「一枚の写真」グループ (個人とグループによる学習で定着を図る) ・各自が気に入った写真を持ち寄り、それを基に説明文を書く。その際、様子や気持ちを表す言葉を使っていく。 ・書き終わったらグループの中で発表会をして、使われていた言葉を確認し合う。	
	「類義語調査」グループ (個人とグループによる学習で発展学習に取り組む) ・様子や気持ちを表す言葉について類義語辞典を使って整理する。 ・微妙な使い方の違いを、例文を作って説明する。	
	各グループで獲得した様子や気持ちを表す言葉を掲示用カードに整理する。	
3次	他のグループの発表を聞いて表現辞典を作ろう (1時間) グループごとに学習した内容を説明し、掲示用カードを黒板に掲示する。発表を聞いている児童は、ワークシート(表現辞典)に様子や気持ちを表す言葉を記入する。	ワークシートの記入の仕方について説明する。 他のグループの発表を聞くことによって語句を増やし、知識を定着させる。(話・聞)(言) 他のグループの発表を聞き、進んで語句を増やそうとしている。(関)